特別仕業検査も本設備で施行する。線路中心間隔を 5.0m とする。

(2) 車　　庫

ア　局部検査・修繕庫　車庫内線路所要長は約 48m であるから車庫の長さは機械職場を含めて 60m 以内でよい。幅は線数によるが，線路中心間隔は 7.5m で線路中心と車庫側壁間を 4.5m とする。梁(りょう)は天井(てんじょう)走行クレーンで軌条面上 6m まで巻き上げられる高さとする必要がある。車庫内床面をコンクリート舗装とするが，とくに重量物取扱箇所および部品解体箇所は木塊舗装とする。

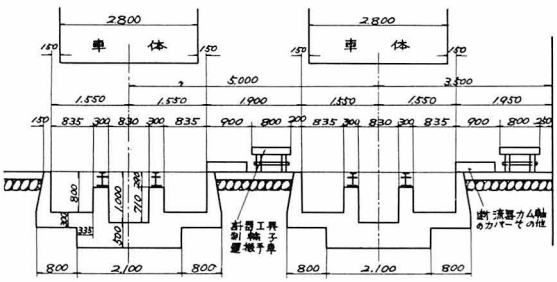
イ　交番検査庫　車庫長は列車の最大編成長にある程度の余裕を加えたものとし，線路中心と車庫側壁間隔を 3.5m とする。梁の高さは 5.3m 以上とし，軌条面上 5.2m の架空線におけるパンタグラフの圧力測定に支障ないようにする。床面にはコンクリート舗装を施す。

(3) 検 査 坑

ア　局部検査および修繕線には幅 900mm で延長，深さはつぎのとおりの検査坑を設ける。

種　　別	台車解体箇所		車体扛(こう)上箇所	計
	入口側	奥　行		
長　　さ	7m	13m	20m	40m
深　　さ	350mm			
記　　事	坑底にトロ線敷設			

図-1　電車交番検査坑



イ　交番検査線には担当線区の最大編成長に 10m を加えた長さの検査坑を設ける(図-1 および写真-1)。

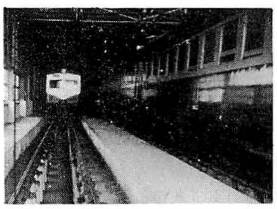


写真-1　交番検査坑

(4) その他の設備

ア　局部検査・修繕関係

局部検修庫の奥の部分を機械職場に充当し，旋盤，型削り盤，ボール盤，研摩盤などを備え，これら工作機械の設置箇所から車輪積込み場所まで検修車庫の全長にわたり可動の天井走行クレーンを備える。そのほかリフティングジャッキ (40t)，圧縮空気管，ソーダ煮洗装置，作業台，重量品運搬用軌道などの設備を必要とする。

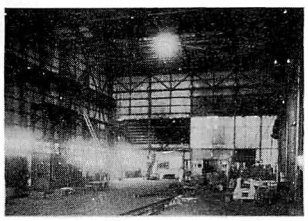


写真-2　検修車庫機械職場

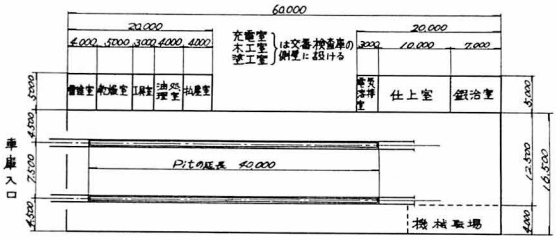
イ　交番検査 (特別仕業検査) 関係　圧縮空気管，道具保管箱，作業台を設ける。

(5) 付属職場　検修車庫に付属して機械職場(写真-2)のほかつぎの各種職場を設ける(図-2)。鍛治職場，仕上職場，木工職場，充電室，発電気室，排塵室，ソーダ槽(そう)室，電動子乾燥室，油処理室，工具室，空気圧縮機室，電気溶接器室。

3　電車の清掃

旅客サービス上電車は常に清潔に保たなければならない。このため随時清掃されているが，おおむね 5 日ごとに電車区の特定の設備を有する洗じょう線に入れ車両内外の大掃除を行う。

図-2　電車検修車庫平面図



洗じょう設備の概要はつぎのとおりである。

(1) 洗じょう線の所要長および線数　洗じょう作業は編成のまま施行するため，線の所要長は，担当線区の最大編成長に 10m を加えた長さとする。

線数は電車区の作業の多少によって一定しないが，一般に 1 編成は 5 日ごとに洗じょうされ，1 線での洗じょう能力は 1 日 3 編成とし，これに波動率 30% をみて算出される。

(2) 洗じょう台　車両の外部洗じょうに便なるよう線の両側にそって洗じょう台を設ける。台の高さおよび幅はつぎのとおりとする。

段　種　別	軌条面からの高さ mm	幅 mm		記　　事
		両側	片側	
洗じょう台	1,350	1,000	800	
補助踏段	800	300		ただし洗じょう台から突出した部分は 200mm とする

(3) 洗じょう線中心間隔

洗じょう線相互……4.5m

洗じょう線と他の線路……5.0m

洗じょう線と車庫壁……3.0m

(4) 道　　床　洗じょう線道床面は全面的にコンクリート造とし適当な勾配(こうばい)を付した排水溝を設け，汚物の流出を容易にする。

(5) 付属設備

ア　水　　槽　洗じょう台上 10m 間隔に水槽を設け，給水管および蒸気管を配す。

イ　電車給水管　取出口は 10m 間隔とし，必要に応じて設けるものとす。

ウ　真 空 管　真空掃除機使用のためのもので取出口を 10m 間隔とする。

エ　圧力空気管　車両内部の清掃に圧縮空気を用いる。取出口を 10m 間隔に設ける。

(6) 洗じょう車庫　寒冷地方または降雪多量の地方では，洗じょう線に車庫を設ける。

(7) 塵芥(じんかい)焼却炉　車内大掃除に伴ない発生する塵芥を処理するために設ける。でき得れば，洗じょう線との間に塵芥運搬舗道を設ける。

4　車庫外の線路